

第5章 歴史的・文化的環境の保全

第1節 歴史的・文化的環境の保全

1 現状と課題

京都は、千有余年の永きにわたり都が置かれた地域であり、多くの歴史的・文化的遺産が今に伝えられています。特に、日本の文化財の多くが京都に集中し、18年11月末現在、府内にある国指定の重要文化財は2,218件と全国で2番目に多く、とりわけ国宝は255件と全国一となっています。内容的には建造物が286件と全国で最も多く指定されているほか、史跡、名勝、天然記念物としての指定も全国有数を誇っています。なお、府指定、登録等の文化財も、建造物174件、美術工芸品234件、無形文化財7件、民俗文化財100件、史跡・名勝・天然記念物57件、文化財環境保全地区67件、選定保存技術2件の計641件を数えます。さらに、これら指定文化財等の他、古墳や都城・寺院跡等16,000件余りの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が存在します。

また、地域の自然景観と密接に結びついた歴史的風土を作り出している伝統的建造物群やまちなみ、史跡・名勝・天然記念物、地域の文化と密接に結びついた民俗芸能や風俗・慣習、生活と密接に結びついた伝統産業や伝統工芸などは、京都の環境を形づくる重要な要素であり、京都の貴重な財産として、生活環境や自然環境と一体的に保全し、より豊かなものとして将来に伝えていくべきものであるといえます。

さらに、京都の人々が長い年月をかけて育み受け継いできた、自然を無理なく生活に取り入れる習慣、ものを大切にする習慣などの優れた生活文化を改めて見直し、その継承と活用、振興を図っていくことも必要です。

2 歴史的風土の保全

自然と調和した建造物群やまちなみの保存

優れた自然や環境と一体をなして歴史的風致を形成している歴史的・伝統的な建造物群を保存するために、府では市町村が実施する「伝統的建造物群保存対策調査」や「重要伝統的建造物群保存地区保存事業」の取組に対し、支援をしています。

歴史と一体となった自然環境の保全と管理

京都の歴史は、その四季折々の自然や美しい景観などを背景として育まれてきたものであり、これらの文化的環境を守りながらより豊かなものとして将来に伝えていかなければなりません。

府では、文化遺産と一体となって歴史的風土を形成し、文化的に高い価値を持つ自然環境を、府民の財産として未来に継承するため、府環境を守り育てる条例に基づき歴史的な自然環境保全地域に指定しています。これまで、10地域297.83haを指定し、保全地域を管理する上で必要な案内板・標識類等を設置して来訪者への周知徹底を図るとともに、監視員を配置し、監視・指導を行い適正な保全に努めています。

豊かな歴史と自然のふれあいの場の創出

歴史的な自然環境保全地域を府民と自然とのふれあいの場として活用するため、自然解説板や休憩施設、散策路の整備を行うほか、自然観察会などを開催しています。

府文化財保護条例による適切な保存

優れた歴史的遺産と貴重な自然環境が一体となり、文化的にも学術的にも高い価値を持つ歴史的風土・建造物群やまちなみを保存するため、府では、府文化財保護条例に基づき、文化財の指定・登録や、文化財をその環境と併せて保存するために文化財環境保全地区の指定や、文化財を

保存していくために欠かせない技術である選定保存技術の選定を行っています。

18年3月17日には、新たに13の文化財を指定・登録するとともに、文化財環境保全地区1件を決定しました。

表3-23 新たな文化財指定・登録の内容(18年3月17日)

内 訳	件数	指定・登録文化財の内容
建 造 物	5	天満神社本殿(1棟、与謝野町)、春日神社本殿(1棟、南丹市)、 生身天満宮本殿(1棟、南丹市)、 生身天満宮拝殿、秋葉社(2棟、南丹市)
美 術 工 芸 品	6	【絵画】覚禅鈔(164巻、山科区:勸修寺) 絹本着色熊野垂迹曼荼羅図(1幅、左京区:聖護院) 【彫刻】木造毘沙門天立像(1軀、東山区:尊勝院) 【工芸品】大徳寺伝法衣類(3棹1合、北区:大徳寺) 【古文書】足利高氏願文(1巻、亀岡市:八幡宮) 【考古資料】人面付壺形土器 顔面部片(1点、上京区:京都府)
無 形 文 化 財	1	絨織(保持者:左京区、村上良子)
史跡名勝天然記念物	1	【史跡】田辺天神山遺跡(京田辺市、同志社)
文化財環境保全地区	1	天満神社文化財環境保全地区(与謝野町)
計	14	

表3-24 府指定・登録等文化財件数一覧(18年11月末現在)

種 別	有 形 文 化 財											無 形 文 化 財		民 俗 文 化 財		史 跡	名 勝	天 然 記 念 物	指 定 登 録 計		文 化 財 環 境 保 全 地 区 決 定	保 全 地 区 選 定	選 定 保 存 技 術 選 定	合 計											
	建 造 物	美 術 工 芸 品								小 計	指 定	登 録	有 形	無 形	指 定				登 録	指 定					登 録	指 定	登 録								
		指 定	登 録	指 定	登 録	指 定	登 録	指 定	登 録																			指 定	登 録	指 定	登 録	指 定	登 録	指 定	登 録
件数	94	80	45	8	41	8	37	9	11	1	34	8	18	1	12	1	198	36	7	0	2	12	18	68	21	0	16	0	15	5	371	201	67	2	641
	174	53	49	46	12	42	19	13	234	7	14	86	21	16	20	572																			

また、文化財の保護を図るため、府の指定登録などの文化財について、所有者が行う修理・保存事業に必要な経費の一部を補助し、必要に応じて保護・活用に必要な指導を行っています。

表3-25 事業別補助事業件数(17年度)

区 分	件 数
建造物保存修理事業	13
建造物防災施設事業	3
美術工芸品保存修理事業	6
美術工芸品防災施設事業	2
記念物保存修理事業	3
文化財環境保全地区修理事業	1
計	28

3 地域文化の保存・継承

歴史的景観の保全

京都独自の歴史的風土・景観等の保全、民俗芸能や風俗・慣習などの伝統文化の保存・継承、さらに地域固有の優れた生活文化を活かす文化活動の機会や文化活動拠点の充実を図るため各種事業を展開しています。

伝統文化の保存・継承

府内各地に伝えられる民俗芸能や風俗・慣習などの伝統文化を保存・継承するとともに、現代社会の中で新たな関わりを見つけ、次世代に伝える環境づくりを進めています。

また、府緑と文化の基金を活用して、府立植物園では「名月観賞の夕べ事業」を実施し、月を愛でる古来からの慣習を次世代に伝える機会を提供するとともに、自然や家族とのふれあいを育む取組を行っています。

新たな地域文化の創造推進

既存の教育・研究機関などとの連携により新たな文化・芸術を生み出していくための基盤づくりを進め、新たな地域文化の創造を推進しています。

文化交流の促進

既存の文化施設を活用して、府民と芸術家などとの交流や全国的・国際的な文化交流などの多様な取組を促進しています。

「京都・文化の森」づくりの推進

15年度から、世界に誇れる京都の景観づくりを進めるため優れた風致景観の形成に貢献する社寺等の後背林などの整備や、京都の文化財や町家の修復のための用材供給を担う森林の整備を進め、京都の文化振興に貢献する森づくりを推進しています。

4 生活文化の継承・振興

地域固有の生活文化の再評価及び継承・活用・振興

京都の歴史や自然と深く関わりながら、今日まで引き継がれてきた地域固有の優れた生活文化を再評価して、継承・活用・振興を図る仕組みづくりを進めています。

府では、農山漁村地域で活躍される経験豊かな方々が有する農業・林業・水産業に関する伝統的又は優れた生産・生活技能の保存と伝承を目的に、その技能を「農山漁村伝承技能登録・認定制度」により登録するとともに、特に貴重で高度な技能の保持者を「農の匠」・「山の匠」・「海の匠」として認定しています。これまで441名について技能の登録を行い、うち33名を「京都府農・山・海の匠」として認定しました。また、これらの方々が生涯現役として、小・中学校における体験学習や地域文化活動の場で広く活躍し、地域で後継者を育て技能を伝承するための支援をしています。

このほか、15年度策定の「いただきます。地元産」プランに基づき、学校や病院、福祉施設等の給食への地元農産物の利用促進等を通じて食文化や地元農産物を生かした食生活への理解を深める取組を進めています。

生活文化活動の支援

文化活動拠点の機能の充実を図り、府民・企業・行政などの連携を円滑にして、様々な生活文化活動が展開されるよう支援しています。

伝統産業・伝統工芸等の振興

我が国の貴重な財産である伝統産業、伝統工芸などの文化的・技術的価値を次代に継承していくための取組を進めるとともに、21世紀のライフスタイルに応じた生活文化創造産業として新たな発展が図られるよう支援をしています。